

- 令和3年度国語問題研究協議会における取組報告について、御説明いたします。
- 文化庁では、我が国の国語をめぐる諸問題を取り上げ、改善の方法等について研究協議し、国語に対する関心を高めるとともに国語施策に資することを趣旨として、毎年、国語問題研究協議会を開催しています。
- 11月24日に行われるこの協議会において、広島県が進めている国語科の授業改革の取組を報告させていただくことになりましたので、この場をお借りして御説明申し上げます。
- まず、国語〔科の授業の読解〕というのはですね、もちろん発達段階によりまずけれども、大きく3つ〔の分野〕に分かれます。
- まず一つ目が古典。それからもう一つが説明文。それから最後に小説〔等の文学作品〕という形になります。
- 日本の国語〔科の読解〕の授業というのは、小説についてどうしても情緒的に取り上げがちとなります。例えば、登場人物の気持ちを〔推し〕量るとかですね、察するとか。道徳なのか国語なのかという授業が、私も学校に〔視察に〕行っていてすごく多いなと感じておりました、海外というのはこういうことがございません。つまり、小説というのも結構切り刻んで、論理的に、作品をクリティカルに分析、評価しながら読んでいく、いわゆるライフレッスン、人生のレッスンとして読みます。
- これを今、読解力〔が大切である〕とも言われておりますので、そういった〔分析、批評的な〕小説の読み方、あるいは説明文とか古典についてもそうですけれども、今回はこの小説の読み方、あるいは国語の授業〔改善〕のことについて取り上げようと思っております。
- こういった力を身に付けるためには、子供たちが、自分自身のことや自分の意見、あるいは相手に理解してもらえるように、相手や場面に応じて、言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら伝えることが重要になってくると思います。
- 国語〔科の授業〕を、先ほども申し上げましたように、文学作品を読む際に、登場人物の心情を読み取るだけでなく、例えば、同じ作家でも違う複数の作品を比較してみ

たり、あるいは同時代の違う作品と比較したり、作品自体をクリティカルに分析・批評しながら読む読書体験を通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、文学作品を読むということの意味や価値に気付いたりする。こういった授業に改善していきたいと思っております、現在、中学校国語科の各市町の中核となる教員を集めて「広島県中学校教科教育推進研修」を行っております。

- 今回は、こちら〔広島県の取組〕の発表をどういう趣旨でやっているのか、どのように具体的にやっているのかということが、文化庁の国語問題研究協議会の方で発表されるということですので、御取材の方をお願いできればと思っております。